

うつのみやまちづくり市民会議 議事録

会議の名称	市民会議（第4回市民福祉分科会）
開催日時	平成18年1月27日（金）午後6時30分から8時45分
開催場所	宇都宮市役所 会議室
出席者	（市民委員）、梅林孟副会長、新由美子委員、上野茂委員、大堀導子委員、千保喜久夫委員、矢田部一郎委員（欠席）伊達悦子会長、江連京子委員（市事務局）
会議内容	
会議資料	1. 第3回分科会 議事次第 2. 第4回資料
発言者	発言内容
進行	<p>それではこれから第4回分科会を行います。</p> <p>（出欠確認、前回の議事録確認）</p> <p>3月には全体会で重点課題について発表することになっています。今回は皆さんが考える重点課題について、より具体的に議論したいと思います。</p>
事務局	（資料説明）
市民委員	<p>まずは前回までの議論を生かして、宇都宮市の強みと弱みを再整理する必要があります。</p> <p>再整理するなかで、議論が足らなかったところを補うようにしませんか。</p>
市民委員	⇒議論した内容（前回までの検討結果を含む）を次ページに掲載
市民委員	今回は障害者福祉にやや偏った議論となりましたが、児童福祉など、他の重要な分野についても次回議論しましょう。
事務局	全体会では、重点課題を発表していただきます。重要な課題は多いのですが、この分科会では特にここが重要だと思うということを、ある程度の数に絞って、打ち出していきます。
進行	<p>次回は2月28日（火）です。次々回の日程は全体会との調整もあるため、今回は決めないことにします。</p> <p>それでは以上で第4回の市民会議市民福祉分科会を終了します。ありがとうございました。</p>

【宇都宮市の強み】

- ・ 暮らしやすさ（自然が豊かであること等）
- ・ 市民に思いやりがある
- ・ バイアフリー（駅でのエレベータ設置等）が 5 年前と比べ進んだ
- ・ 障害者への理解を助ける教育を行う実験校
- ・ バスカードの交付やきぶな、低床バスの運行のため、高齢者や障害者が外に出ていきやすい環境がある
- ・ 高齢者が元気（特に 65－74 歳，女性）
- ・ 子育てサポートセンターが充実
- ・ NPO の数が多い

【宇都宮市の弱み】

○障害者や高齢者へのハード面でのバリア

- ・ インフラ面では障害者にとって使いにくいものも多い
(点字を読めない人向けのものが不足, 点字ブロックが物で妨害されている等)
- ・ 福祉タクシーがない (障害者にとってはバスよりタクシーがよい)
- ・ ハード面のバリア残っている (例: オリオン通)
→特に視覚障害者にとってのバリアが多い
- ・ 外出時高齢者が座れるベンチが少ない (高齢者が外出しやすくなるようにする必要がある)

○障害者への心の面でのバリア

- ・ 先生 (学校) の障害者への理解不足
- ・ 心のバリア, 市民の意識不足 (障害者への配慮不足)

○障害者の自立への支援不足

- ・ 障害者の社会参加が少ない (障害を隠すという意識が強い)
- ・ 障害者の自立支援法 → 今後は障害者への負担が増加
- ・ 障害者の働く場が少ない

○社会参加や地域での助け合いの不足

- ・ 男性高齢者は社会参加 (地域活動) に消極的
- ・ 地域単位 (自治会等) での助け合う機会が不足
- ・ 若い世代の社会参加が不足

○子育てへの支援不足

- ・ 子育て時間のとれない親の増加
- ・ 親の長時間労働 → 保育施設不足
- ・ 子どもの居場所 (異なった年齢の子どもが交流できる場) が不足
- ・ 留守家庭学級の対応が不十分 (全ての学校での対応が必要)
- ・ 母子家庭への支援が不足
- ・ 少子化対策への経済的支援が不足

○施設間連携の不足, 縦割り行政

- ・ 施設間の連携・協力不足←縄張り意識が強いため, サービスの質・向上・経営の効率化が不十分
- ・ 多機能の施設が少ない
- ・ タテ割り行政 → 類似の補助金・助成金が重複
- ・ 指定管理者制度 → 民間への委託が進むが, シルバー人材センターが十分活用されていない